

やることがある喜び

NPO法人 みどり会



▲ 下山さんと施設長の今野さん

仙台市で精神障害者の自立を支援している団体です。仙台市内にグループホーム「みどりの家宮町」と「みどりの家中江」の二施設と、小規模作業所「みどり工房永和台」と「みどり工房若林」の四つの施設を運営しています。

三月の大震災による大津波で、小規模作業所「みどり工房若林」が被害を受け、施設は基礎だけを残し全壊し、什器や備品、製品、書類等も全て流失。作業場として活用していた九百坪の畑も利用不可能になるなど、深刻な状況になりました。

日頃の訓練が役に立った

地震発生時、利用者は作業を終え休憩中でした。長時間揺れる地震の恐怖の中、なんとか自分を保ち、メンバーとスタッフは車で七郷小学校(仙台市若

▼ 津波で流された「みどり工房若林」跡



林区)へ避難しました。災害が起こったときなど非常時は助けを待つスタイルではなく、自分でなんとかしないと、と自覚することが大切。」とみどり工房若林の施設長今野真理子さん。実は、今野さんは数年前から災害ボランティアネットワークの勉強しており、これが震災当日から避難所生活までとても役に立ちました。

避難の際、まず事前に準備していた三日分の防災用品の備えを持って逃げ、次の日にメンバーの薬を確保するため病院に足を運び、バラバラになった家族、スタッフとは情報の共有をするため、目立つところに張り紙をするなど、適切に行動しました。その結果、日頃からの避難訓練の功もあり、通所していたメンバー七人とスタッフ四名は、けがもなく避難し、十日間に及んだ避難所生活も、スタッフがメンバーに付き添い、共に避難所生活をしてきた為、なんとか乗り切ることができました。

再開へ向けて

工場の再生を心待ちにする方々に応えるため、理事長の尾崎正光さんを中心に、早い段階で再開の意思を固め、三月二十六日には「みどり工房若林」の再建委員会を立ち上げ、復興に向けて動き出しました。

四月中旬から「太白区障害者福祉センター」を借りて活動を再開し、仙台市担当課との協議、「新工場の物件探し・契約・準備工事」、「補助金の申請」、「会員を始めとした各方面への情報開示・寄附依頼」等々、と精力的に活動。震災でスタッフ四名のうち二名が退職した中、なんとか六月七日から新しい施設「みどり工房若林」を再開することができました。「再開は本当に多くの方に支えられた結果です。また、スタッフだけではなく、メンバーさんも一緒に新たな施設を探してくれるなど、応援してくれてとても心強かったです。」と今野さん。

輝く顔に

再開から三ヶ月が経ち、「みどり工房若林」も落ち着きを取り戻してきました。メンバーもスタッフも皆とても良い笑顔で、まるで家族のように過ごしています。震災後は、これまで作ってきた製品がすべて流された上、加工する材料が手に入らないため、することが無く、つらそうなお顔をしていました。でも工房が始まると、一から作り始めなければならぬ製品作りも張り合いがあり、目の輝きが違っ



▲ 手芸品

明るい顔となっていました。今も、さおり織りやパンチングレザー、ビーズなどを使った様々な製品作りに取り組んでいます。

「やはり、やることがある、役割があるということは、みんな充実していて、いい顔になっていくんですね。本当に今の生活が充実しているという証です。」と今野さん。これからは、以前のように農作業ができる場所を確保し、室内で作業をするか、外で農作業をするか選べるスタイルを取り戻していこうとスタッフは奔走しています。震災後、スタッフとメンバーの絆がより深まったことも嬉しいことです。

NPO法人
小規模地域活動センター
みどり工房若林

〒984-0826
仙台市若林区若林2-5-5SKビル2B
●TEL 022-762-7610
●FAX 022-762-7611